

貸家は商品也 家賃値下運動 充分の合理性 與平生

全国的に大きな問題となつて来た家賃値下は、今や磐城地方でも積極的運動を開始するに至つた。東京本所管内では三十ヶ町の有志が「家賃三割値下げの即時断行、漸次五割まで値下實現を期す」とを目的として、猛烈に家賃百三十圓を遂に調停

裁判に持出して結局七十圓に値下げされたといふ實例を新聞紙が報じてゐる。敷金廢止、家賃減額、對反對、家賃は値下げの解決するまで家主に納めずして委員で保管し、もし東切者のあつた場合はその保管金を全部沒收する契約をしてゐるといふ状況である。

平名物業内記 新田町の巻

白粉の香と三味の音と交錯する

彼女等の裏面には かゝる可憐な證文在

朝は十時頃に漸く雨戸を開けて隣からも向へから一齋にハタキの音など聞いたあは三味の音がこの狭い路道を挟み狭めて建ち並んだ格子戸の家からオーケストラを奏してゐるやうにも聞い流れるのは此の町特有の情景やがて午後二時三時頃になると二人、二人と所謂彼女等の朝湯の輝きを眩

松月と白菊とを入口の玄關として殆ど一家族と同様、この世界以外の人た

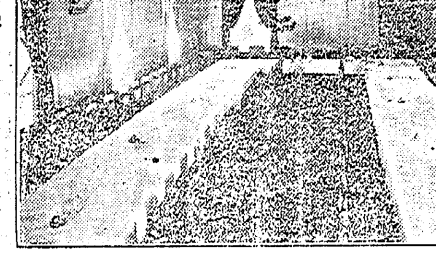
藝妓契約證

右... 第一條... 第二條... 第三條... 第四條... 第五條... 第六條... 第七條... 第八條... 第九條... 第十條... 第十一條... 第十二條... 第十三條... 第十四條... 第十五條... 第十六條... 第十七條... 第十八條... 第十九條... 第二十條... 第二十一條... 第二十二條... 第二十三條... 第二十四條... 第二十五條... 第二十六條... 第二十七條... 第二十八條... 第二十九條... 第三十條... 第三十一條... 第三十二條... 第三十三條... 第三十四條... 第三十五條... 第三十六條... 第三十七條... 第三十八條... 第三十九條... 第四十條... 第四十一條... 第四十二條... 第四十三條... 第四十四條... 第四十五條... 第四十六條... 第四十七條... 第四十八條... 第四十九條... 第五十條... 第五十一條... 第五十二條... 第五十三條... 第五十四條... 第五十五條... 第五十六條... 第五十七條... 第五十八條... 第五十九條... 第六十條... 第六十一條... 第六十二條... 第六十三條... 第六十四條... 第六十五條... 第六十六條... 第六十七條... 第六十八條... 第六十九條... 第七十條... 第七十一條... 第七十二條... 第七十三條... 第七十四條... 第七十五條... 第七十六條... 第七十七條... 第七十八條... 第七十九條... 第八十條... 第八十一條... 第八十二條... 第八十三條... 第八十四條... 第八十五條... 第八十六條... 第八十七條... 第八十八條... 第八十九條... 第九十條... 第九十一條... 第九十二條... 第九十三條... 第九十四條... 第九十五條... 第九十六條... 第九十七條... 第九十八條... 第九十九條... 第一百條...

益々多きに拘らず家賃が依然として生活費の二割乃至は三割に達して借家人に重課を加へつゝあることは社會問題として見逃し難きことである。家主としては建築費、土地價格、家賃修繕費、家賃不拂等の費用も見なければならぬが、時に探算がとれない場合があつても、貸家が商品たる以上、致し方のないことである。かくのごとく家賃値下運動には充分の合理性があるが故に家主たるもの此の場合覺醒一番先づ平地方は世間を騒がせる中に自發的に値下を断行して飽を全国的に示されたのである。家主諸君に進言するものがある。

小川郷 吉岡 河歩
大和町の橋を渡りてきて友里が努力の甲斐に目出度くも吹き渡る家の風が那

丸昌ホールの評判
平南町丸昌氏が一肌脱いで奉仕的に新築した丸昌ホールの優に百人を收容し得る設備を講演會や協議會其他あらゆる集會に無料提供する一方洋式宴會等は當地の唯一品で利便は非常なる處より頗る歓迎を受け大入客を極めてゐる此處の宴會には藝妓抜きの女給さんがつとめるのも味あらう、此の寫真銅版は上は講演會席の光景、下は宴會席の情景である



青眼眼
よく晴れた種まいた石城民政派の若松野崎二人が大きな馬力をかけての縣參事運動に見事勝利を挙げた美三君には秋原雄君等初め随分と若松勝しめよと自腹を切つての活動が効を奏したことは勿論であるがよく斯くの如く同僚が期せずして集まつたのも君の徳と云ふものである。

通俗濱三郡の政界

熊公「新聞記者」の先生來年タイ政友の野郎共は腰抜けは念々總選挙があるののでしかりで前の野郎共を物云ふよ...

闘争悪化 時代の平町

町村 長も 闘争悪化 時代の平町 政友の無氣力振りに 民政の分裂觀に 智腦簡單な伏見の...

加へんとした(理由表) (第一次松方内閣) 第二次(第二次大隈内閣) 第三次(第二次大隈内閣)...

近頃家賃問題が喧しなつて家主中には借家人から有難かられて居る人もあるや...

田和印刷所可愛な下り 田和印刷所が可愛な下り... 田和印刷所が可愛な下り...



町議員に告ぐ 宜しく政黨を超越せよ (一) 江尻中 町議員に告ぐ...

空論放言の平町會

町會議員選舉無効訴訟願 に有効と決議し縣參て 面目玉が丸潰れとなる

平町字橋小路十二番地安藤家全町一番地山野政の兩議員は、五月三十日執行の町會議員選舉に於て若松武一郎、吉田政吉、佐々木喜一の三名は選舉期以前其の住所を平町以外に移轉せしものなるに係らず選舉權行使せしは違法なりとの理由の下に鈴木庫左右は異議申立を爲せし處へたるを以て前記兩名は前記三名の外更に佐川友次郎、柴崎忠太、中川西蔵の三名を加へて都合六名は各選舉期日以前住所を平町以外に移轉せしを以て町制第六條乃至第八條に依り選舉權を有せざるにも係らず投票せしは何れも違法且無効と認めべく、今假し右六名の投票を最低得票當選者たる坂本隆藏若くは藤川三郎の得票總數七拾六票より控除するに六拾七票となり次點者たる遠藤林松の得票總數は之を争ふ餘地なし昨年九月以來平町内に住所を有せし積極的證明なき限り全人の住所は選舉期日前既に他に移れりとの断せざるを得ず

町會は七月三日右の申立排斥の決定を與へたるを以て前記兩名は

大正拾叁年十月弟子を引きつれて上京し東京市下谷區西町三番地田中嘉吉所有の家屋をかりうけて居る構へ建築請負業に従事し且昨年九月十五日現在による東京市會議選舉人名簿に登録されし事實は下谷區長の證明する所なり且つ平野警察署の戸口調査簿によれば東京に移住せし事實記載ありて至第八條に依り選舉權を有せざるに係らず投票せしものなるに右五名の投票は無効なり今假し右の五票を最少得票當選者たる藤川三郎若くは坂本隆藏の總得票數七拾六票より控除する時は六十八票となり次點者たる遠藤林松の總得票數七拾六票より三票だけ少數となり是れ選舉の結果に異動を生ずるの虞がある理由に依り七月三日平町會の爲したる決定は之を取消すべく、**全年五月三十日執行の全町會議員選舉は之を無効とす**但し高橋龜松、吉村安次郎、村上茂作、藤原義雄、關内正一、野崎満、吉田實之輔、千葉彦治、根本品藏、馬目武之助、石川中野勇吉所有の家屋を賃借して八百坪を開業せり

町會議員選舉無効訴訟願

佐々木喜一
大正拾叁年十月弟子を引きつれて上京し東京市下谷區西町三番地田中嘉吉所有の家屋をかりうけて居る構へ建築請負業に従事し且昨年九月十五日現在による東京市會議選舉人名簿に登録されし事實は下谷區長の證明する所なり且つ平野警察署の戸口調査簿によれば東京に移住せし事實記載ありて至第八條に依り選舉權を有せざるに係らず投票せしものなるに右五名の投票は無効なり今假し右の五票を最少得票當選者たる藤川三郎若くは坂本隆藏の總得票數七拾六票より控除する時は六十八票となり次點者たる遠藤林松の總得票數七拾六票より三票だけ少數となり是れ選舉の結果に異動を生ずるの虞がある理由に依り七月三日平町會の爲したる決定は之を取消すべく、**全年五月三十日執行の全町會議員選舉は之を無効とす**但し高橋龜松、吉村安次郎、村上茂作、藤原義雄、關内正一、野崎満、吉田實之輔、千葉彦治、根本品藏、馬目武之助、石川中野勇吉所有の家屋を賃借して八百坪を開業せり

町會議員選舉無効訴訟願

佐川友次郎
町會の決定並に辯明に依り全人は從來平町字田町五番地に於て物品販賣業を営みし間店して本年四月江名町字南町九十五番地小平海居り

町會議員選舉無効訴訟願

柴崎忠太
全人は本年正月より三月頃迄石城郡間村大字中子字間の上二十六番地柴崎所有の家屋を賃借し妻と共に山野逸瓦工場に勤せる事あり

町會議員選舉無効訴訟願

中川西蔵
本年五月初めに平町より四倉町仲町に來住し四ツ倉電燈會社の調籍によれば全日人名簿にて點火局をなし引きつゞき電燈料を納入しつゝありて即選舉期日前既に平町以外に住所を移せしに相異なし、以上の調査を以て之を觀るに若松武一郎を除き他の五名は何れも訴願人申立の通り選舉期日前既に平町以外に住所を移し従ひて町制第六條乃至第八條に依り選舉權を有せざるに係らず投票せしものなるに右五名の投票は無効なり今假し右の五票を最少得票當選者たる藤川三郎若くは坂本隆藏の總得票數七拾六票より控除する時は六十八票となり次點者たる遠藤林松の總得票數七拾六票より三票だけ少數となり是れ選舉の結果に異動を生ずるの虞がある理由に依り七月三日平町會の爲したる決定は之を取消すべく、**全年五月三十日執行の全町會議員選舉は之を無効とす**但し高橋龜松、吉村安次郎、村上茂作、藤原義雄、關内正一、野崎満、吉田實之輔、千葉彦治、根本品藏、馬目武之助、石川中野勇吉所有の家屋を賃借して八百坪を開業せり

町會議員選舉無効訴訟願

各銀行案内
支店長 中村梅三郎
支店長 有賀幸太郎
支店長 猪野廣
支店長 山森正芳
支店長 齊藤莞爾
支店長 川角豊太郎
支店長 今平勝巳
支店長 佐藤芳松
支店長 仲田良藏
支店長 吉田保壽
支店長 鈴木正加
支店長 鈴木幸次郎
支店長 小野利光
支店長 河本利光
支店長 松田金太郎
支店長 松田金太郎

鐵道省 御用達
磐城炭礦株式會社
三材木店 佐藤三平
福島縣石城郡内郷村大字小島字新町十一番地
平電話四三〇番

橋本屋の靈柩自動車
平町新川町部にては今回高級優雅なる靈柩自動車を購入し一般靈柩の葬送に然も低廉なる料金にて用便するとの由なるが勿論
遠隔の地へも應ず
へし
云ふ該
自動車
内には
導輪の
喪主、
花環七
八個の
飾付は
自由の
こと
にて此
の寫眞
版は如
實に物
語をも
のであ
る

この意味に於て何卒
御愛讀を願ひます
磐城之實業は社會の醫者たり悪人と雖も之れを
悪まず其の病む所を治療す
磐城之實業は人道の戦士なり道を説くに當りて
はあらゆる迫害とあらゆる苦痛とをしのぶべし
磐城之實業は信託旗なり不測の危険を世人に信
號すべし
地に氣を吐いて居る氏の勞
力に實に堂々たるもので敬
服に値する
問題で行政訴訟中だが氏の
勝利となれば頗る興味ある
事件が惹起することならん

平野新聞の山野邊、主幹發行
期日を確實にして磐城の天



平町新報の山野邊、主幹發行
期日を確實にして磐城の天

<p>土木請負業 荒川銀次 猪狩菊三郎 只野忠康 前澤文太郎</p>	<p>石城郡小名濱町 銘酒 清世界醸造元</p>	<p>清水屋 小野晋平 各炭礦御用達 電話六番</p>	<p>石城郡 第一區小學校長會 第二區小學校長協議會 第三區小學校長會 第四區小學校長會 第五區小學校長會</p>	<p>日本石油株式會社特約店 平町二丁目 油問屋 關内油店 關内正一 電話四十六番</p>	<p>高級常設 平館</p>	<p>高級常設 有聲座</p>	<p>内郷村白水 浪花炭礦 佐藤留藏</p>	<p>内科外科診療一般 片岡醫院 湯本町聯絡</p>						
<p>土木請負業 丸山組 平町丸山徳次郎</p>	<p>銘酒 三國一 釀造元 石城郡草野村 渡邊貞二</p>	<p>大浦村(電話三十三番) 木村醫院 木村守江</p>	<p>山田村 安島重三郎</p>	<p>川部村長 兒玉萬平</p>	<p>四倉町 磐城セメント株式會社工場</p>	<p>平町會議員一同</p>	<p>神谷村長 佐藤久三郎</p>	<p>四倉町 助役 菅波千之助</p>	<p>江名町長 河野嘉藏</p>					
<p>小名濱町 町長 鈴木榮</p>	<p>小名濱町 助役 高木保</p>	<p>平町 中島寫眞館</p>	<p>湯本町 西丸新聞店</p>	<p>四倉郵便局長 菅波富太郎</p>	<p>平七丁目 志賀兵吉</p>	<p>植田町 秋山製材所</p>	<p>植田町 前田醫院</p>	<p>御料山田屋本館 山田屋別館 長谷川豊之助 四倉信用組合</p>	<p>平月見町 根本品藏</p>	<p>平四丁目 茶舗 根本園</p>				
<p>東洋捕鯨株式會社 小名濱工場</p>	<p>小名濱大吸網事務所 郡司二郎</p>	<p>泉村長 中村立躬</p>	<p>赤井村長 根本忠松</p>	<p>良品廉賣に勝る商略なし 佐川洋品店 石城郡内郷村宮澤 確實敏捷は佐川の生命なり</p>	<p>湯本町 湯本藝妓屋組合</p>	<p>江名郵便局長 江名信用組合長 中田政吉</p>	<p>石城郡内郷村白水 朝鮮炭礦業所 戸邊光衛</p>	<p>石城郡飯野村 和田龍太郎</p>	<p>平五丁目 モリ夕屋洋品店 電話三五三番</p>					
<p>石城郡草野村 猪狩金之助 御料理旅館 山口屋 江名町</p>	<p>常旅 沖見屋 江名町</p>	<p>水野裁縫技藝 女學校 小名濱町</p>	<p>湯本町 鈴木自動車部 電話三一六九番</p>	<p>平町一丁目 備前祝儀引物 藤寅 電話一四一番</p>	<p>新川町 佐藤材木店 電話三五五番</p>	<p>書籍、雜誌 文房具 柴田書店 マルトモ 平町四丁目 電話三〇・五五番</p>	<p>徳用あなあき煉炭 動力と新式機械と原料は化學的配合を以て製造に入念す 無煙。無臭。火力強烈。火持長。然。大量生産なるが故に價格は最も安し 平町南町五〇 磐城殖産合同株式會社 煉炭部 電話四六番</p>	<p>平町三業保健組合</p>	<p>平町四丁目(電話四〇番) 關内藥局 藥劑士 關内榮助</p>	<p>平町南町 本三業組合</p>	<p>平町南町 萩原齒科醫院 電話二五九番</p>	<p>平町 御料理 花月 電話五〇六番</p>	<p>平町 鈴木齒科院 鈴木五郎</p>	<p>内郷村宮澤 産妻 山崎はつ子</p>